

H ドーリー取扱説明書

Hドーリーは、僅かな物理長で倍近い長さをスライドでき、三脚も1本で搭載できる大変コンパクトで移動性に優れたドーリーです。X3pt / X3pt Pro の性能を余すところなく発揮してくれるベスト・マッチのドーリーで、登山や海外旅行などで大変便利に使用する事ができます。将来大型のドーリーを購入しても、決して手放したくならないでしょう。

H ドーリーは組立する必要もないので取扱は大変楽ですが、特殊な構造をしていますので、いくつかの取扱留意事項があります。

1. スチール・レール(上下2本)のメンテナンス

Hドーリーは通常のドーリーと異なり、1台の三脚で支えるため、レールの摺動部に大変厳密な加工精度と強度が要求されます。そのため、レール素材には、通常のアルミニウムとは異なり特殊な高強度鋼材を使用し、摺動ブロックが隙間なく密着しガタのない構造で移動体を歪み無く支える構造となっております。

従って、レール摺動部には適度の潤滑性を維持するように、潤滑油で薄膜^s塗布を施しておくことと円滑な動作をします。またこの高強度鋼材は強度と引き換えに水にたいしては錆を発生しやすいので、この観点からも潤滑油(CRCなどの小型スプレーを携帯すると便利です)によるメンテナンスが重要です。

特に湿度の高い環境での使用、寒い季節の結露しやすい環境では、使用前だけでなく、使用後は乾いた布で水分を拭き取り、潤滑油を塗布するメンテナンスを必ず実行して下さい。常にレールの表面に薄い潤滑油膜が残る状態を維持するようにすると良いです。万が一錆が浮いた場合は、軽い場合は潤滑油と共にボロ布で拭く、またそれでは落ちない場合でも市販のサビ落とし材(研磨剤タイプのものに限る)で拭くことにより完全に落とすことができます。



2. レールの水平設置

Hドーリーはモーターのギア比が低いので、傾けるとエンジンやカメラの重さでレール上をスライドしてしまいます。従って水平設置で使用しなければなりません。(傾斜設置での使用はできません) また、いずれにしろ撮影の際はレールを水平に設置しないと、エンジンが傾いてしまい、パンやチルトの回転軸が斜めになってしまいます。(ドーリー・システムは、どのようなタイプであってもパンを水平にしなければなりません) この調整は三脚に取り付けた雲台でも可能ですが、大きさもかさばらず使い勝手が良く頑丈なレベルを装着すると便利です。



(マンフロット製レベラーの例)

3. 三脚を十分に開脚する

レール端にエンジンとカメラ来ると、重心は大きく傾きますので、それを支えるように三脚は十分に開脚させないと、最悪の場合三脚ごと転倒してしまいます。設置後はすべての装備を搭載し、一旦レール端までゆっくり移動し(手で守りながら)、十分に支えている事を確認してください。

4. レール端での操作

レールが短いので、プログラム設定時にジョイスティックで走行させるとあっという間にレール端に着いてしまいますが、完全に端まで来ると音を立てて空回りをします。空回りをさせるとパルス・モーターは脱調し、位置制御がずれてしまいます。レール・モーターの速度は遅く設定して、レール端の直前で止めるように操作して下さい。

5. 手では絶対にスライドさせない

H ドーリーはギア比が小さいので、エンジンやカメラを横に強く押せばレールをスライドさせる事ができます。この場合、レール・モーターは発電機となってしまう、モーター・ケーブル端には電圧が発生してしまいます。**モーター・ケーブルをエンジンに接続した状態で**このような操作は絶対にお止めください。最悪の場合、内部のモーター・ドライバー半導体素子を破壊する恐れがあります。モーター・ケーブルを何処にも接続していない状態では手でスライドさせても問題はありません。